参考資料２

第４回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会議事概要

会議名称	第４回　千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会 （社会基盤整備・市街地機能更新部会、文化・資源・地域経営部会）
日　時	平成 31 年 2 月 20 日（水） ９：30～11：00　　社会基盤整備・市街地機能更新部会 11：00～12：30　　文化・資源・地域経営部会
場　所	千代田区役所 401 会議室
会議次第	１．開会 ２．議題 （１）（仮称）千代田都市づくり白書案について （２）千代田区における都市づくりの主な論点・テーマについて （３）都市計画マスタープラン改定イメージ（全体構想・分野別構想等）について ３．その他 ４．閉会

＜社会基盤整備・市街地機能更新部会　議事概要＞

■千代田区における都市づくりの主な論点・テーマについて

■都市計画マスタープラン改定イメージ（全体構想・分野別構想等）について

・改定計画の基本的な考え方について

○ 社会のテーマとして考えるべきこと、都市計画として考えるべきことを整理し、都市計画マスタープランで言及すべきことを体系的に整理する必要がある。（特に、地球温暖化対策・SDGｓ・次世代モビリティ）（小澤副部会長）

○ 都市計画マスタープラン≠総合計画であるため、「まちづくり」を含めて総花的にまとめるのではなく、「都市計画」として取り組んでいくべきことにプライオリティを置いて記述するべき。（村木委員）

○ 全体を整理していく中では、上位概念から固めていくべきではないか。（村上委員）

○ 「ソフトの都市づくり」や「マネジメントのあり方」を含め、都市の基本デザインの考え方を示したいということであったが、都市計画マスタープランにおいては「ハードの都市づくり」を明確に記載することが必須であり、「マネジメントのあり方」と一緒に整理することは避けるべき。（村木委員）

・都市づくりの分野設定の見直し、分野別の都市づくりと分野を超えた連携・展開の視点について

○ ビジョンを先に検討したうえで、目標・戦略を議論すべき。（村上委員）

○ 欧米型のスペーシャルプランニングをイメージしていると思うが、複合的にしすぎてしまうと、誰が何をどのようにして実現していくのか等、具体的な部分が分かりにくくなってしまう。（村木委員）

○ これからの都市づくりの主要なテーマの方向性や、これからの都市づくりの主要なテーマが分野別のビジョンの土台となるという流れは、分かりやすくて良いと思う。（中村英委員）

○ これからの都市づくりの主要なテーマについては、重点の置き方や文言を調整する必要がある。（小澤副部会長）

○ 現行計画における分野とこれからの都市づくりの主要なテーマの整理や、分野別の都市づくりの展開とこれからの都市づくりの主要なテーマにおける共通の視点（先進性・強靭性・持続可能性）については、さらなる議論が必要である。（中村英委員・橋本委員）

○ 分野別の都市づくりの展開とこれからの都市づくりの主要なテーマにおける共通の視点（先進性・強靭性・持続可能性）の整理については、主軸をどこに置くかを明確にすべき。（村木委員）

→分野はシンプルに設定して、分野とこれからの都市づくりの主要なテーマとの関連性が分かるように整理できると良いのではないか。（事務局）

・分野別構想・地域別構想について

○ 都市計画マスタープランと分野別計画（アクションプラン等）が連動していくことが見えるようなまとめ方とするべき。（小澤副部会長）

○ エネルギー（地域ビジョンを策定中）や次世代モビリティついての方針を区として固め、土地利用計画や交通計画の中で整理できると良い。（小澤副部会長）

→交通と同じように、エネルギーについても、都市計画マスタープランに頭出しする方向で考えていきたい。（事務局）

○ 次世代モビリティは土地利用計画上大きな影響をもたらすことが想定されており、どの段階でどのような準備をしていくかについては都市計画マスタープランで言及しておくべき。（小澤副部会長）

○ 次世代モビリティの方向感については、都市づくり白書のコラムで示されると良い。（村上委員）

○ 自動運転は現段階で具体的な想定が難しいが、区界と関係なくルートがあるため、他区との空間的なつながりのチェックポイントを押さえ、先進的な方針を示せると良い。（中村英委員）

○ 地域別構想においても、他区との連携について言及した方が良い。（小澤副部会長）

・その他

○ オープンデータ化について、基礎調査に行うべき付加的な調査を議論しておいた方が良いため、項目案を示してほしい。（小澤副部会長）

○ 現行計画における分野とこれからの都市づくりの主要なテーマの整理や、分野別の目標と方針については、各委員に提案いただいたうえで、案を作成した方が良いのではないか。（小澤副部会長）

→次回の都市計画審議会までに再整理し、３月以降に案を示したうえで、提案をお願いしたい。（事務局）

＜文化・資源・地域経営部会　議事概要＞

■千代田区における都市づくりの主な論点・テーマについて

■都市計画マスタープラン改定イメージ（全体構想・分野別構想等）について

・新しい都心のビジョン、都市づくりのマネジメントの方針について

○ 大きすぎるかもしれないが、人類とそれ以外の生物が同等な関係を作っていくというビジョンを打ち出していくべき。（中村政委員）

○ まちづくりの結果として、幸福感や人生の充実感が感じられるようになると良い。（中村政委員）

○ ビジョンを示し、プレイヤーがどのようなモチベーションで目標を実現していけばよいかを明確にすべき。（中村政委員）

○ マネジメントの中で、プレイヤーの人材育成を展開していく必要がある。（池邊部会長・中村政委員）

・これからの都市づくりの主要なテーマについて

○ 領域を横断する部分について、読み手の実感が出てくるような分かりやすい表現にできると良い。（中村政委員）

○ これまで「ひと」に焦点を当てて様々な視点から議論してきたが、整理するとありきたりな計画になってしまうように感じる。（池邊部会長）

○ 賑わい、風格のある景色、歴史、居心地の良さやスマートさ等、「ひと」という視点から千代田区の特性が出てくると良い。（池邊部会長）

○ 千代田区には、住む人、働く人、観光客など、多様な人にとっての居場所が必要である一方で、自分の居場所として感じづらいという面もあり、そのギャップを埋めていくことが大切である。（三友委員）

○ 空間の使い方や価値の出し方について、フィジカルな環境の先にある生活にどう現れるか分かりやすく表現すべき。（福井委員）

○ 空間をいつ、誰が、どのように使うのかという観点が重要で、質的な部分を都市計画の中でマネジメントできると良いのではないか。（オフィスワーカーだけを対象としたイベントでは、市民緑地は実現できにくい。）（池邊部会長）

○ 空間を管理するのではなく、使いたい人が使えるように運営できるようにすることが大切であるが、マネジメント主体と利用者が乖離していると上手くいかないと思う。（三友委員）

○ 「文化」という言葉が少ないが、しっかりと位置付け、根づかせてほしい。（中村政委員）

○ グランドレベルの活用が大事であり、企業本位の大規模開発によって使い手が楽しむ気持ちが排除されることがないよう、１階部分の考え方を言語化しておくべき。（池邊部会長・中村政委員）

○ 楽しい、居心地の良いグランドレベルを考える中では、生物多様性や障害者支援等、様々なメニューへの企業貢献を引き出すことができると千代田区らしい方向性が見出せるのではないか。（池邊部会長）

○ 都市計画は日本人だけのためにあるわけではないため、千代田区に住む外国人、千代田区で学ぶ外国人の視点を組み込むべき。（中村政委員）

○ 千代田区の歴史や江戸からの資産について、外国人にも楽しんで知ってもらえるような都市のサインの仕組みを考えるべき。（QR コードの活用等）（池邊部会長）

■改定計画の基本的な考え方について

○ 本来、目標に対して手段の幅を広げるというのが都市計画マスタープランの役割であるが、制度上の立て付けが残ってしまっていることが気になる。（福井委員）

以上